

# 民間企業と連携した 藻場保全活動の事例集

令和8年2月

水産庁漁港漁場整備部事業課

## はじめに

藻場は、豊かな生態系を育む場であり水産生物の産卵場や、幼稚仔魚の餌場、隠れ場等水産資源の増大に必要不可欠です。さらに、近年は、二酸化炭素の吸収源となるブルーカーボン生態系としても注目されています。

水産庁においては、令和5年12月に藻場等の保全・創造対策を推進するための基本的な考え方を示した「藻場・干潟ビジョン」を改訂し、持続可能な藻場保全体制の構築を促し、カーボンニュートラルへの貢献を推進するとしたところです。

本事例集は、このように重要な役割を担っている藻場の保全・創造について、持続可能な体制構築を目指して、漁業者等からなる地域の活動団体と民間企業が連携して取り組んでいる事例を紹介するものです。

特に、カーボンクレジット等を仲立ちに、地域の活動団体と民間企業が連携して、藻場保全活動を行っている事例について、各地域の取組概要、連携の背景、連携による効果を、図表や写真を用いて分かりやすくまとめています。

加えて、民間企業による人材・資金・技術に関する支援が、藻場保全活動の持続性にどのように寄与しているかが分かるように工夫しています。

これにより、様々な課題を抱えながら藻場保全活動に取り組んでいる団体の方々、これから藻場保全活動に取り組もうとお考えの方々、環境への配慮や地域への貢献をお考えの民間企業の方々等、多様な主体が連携して参画する一助となれば幸いです。

令和8年2月

水産庁漁港漁場整備部事業課

## ○ 事例集の構成

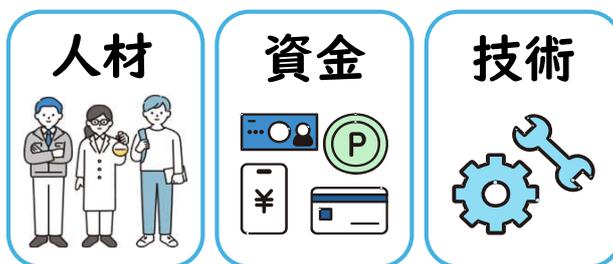
各事例については、地域での取組を紹介するとともに、持続的な藻場保全活動の課題、その課題に対する民間連携の内容とその効果について、人材、資金、技術の3つのカテゴリーで整理し取りまとめています。

持続的な藻場保全活動の課題



課題に対してどのような民間連携をしているか

以下の3つのカテゴリーで連携の内容を整理



連携によって生まれた効果

地域のメリット / 民間企業のメリット

# ○ 目次

No	活動地域	活動内容	民間連携のカテゴリ	ページ
1	岩手県 洋野町	増殖溝での持続的な藻場の創出・保全活動	資金 	4
2	神奈川県 葉山町	藻場保全活動とグリーン水素輸送のカーボンオフセット	人材  資金 	6
3	静岡県 熱海市	地元のステークホルダーと連携したカジメ再生活動	人材  資金 	9
4	三重県 鳥羽市	食害対策とクレジット販売を通じた地元企業等との連携	資金 	12
5	兵庫県 神戸市	多様な主体が参画した藻場保全とクレジットの活用	人材  資金 	14
6	山口県 防府市	EVタンカーを実現した企業との連携と藻場保全活動	人材  技術 	16
7	愛媛県 愛南町	藻場保全活動と商品開発（ウニッコリー、Jブルークレジット）	人材  技術 	18
8	佐賀県 唐津市	ふるさと寄付金等を活用した藻場保全	人材  資金 	20
9	熊本県 天草市	未利用魚活用による地域水産業の発展	人材  資金 	23
10	熊本県 上天草市	企業の環境保護活動とアマモ場再生	人材  資金 	26

# 1 岩手県洋野町

## 「増殖溝での持続的な藻場の創出・保全活動」

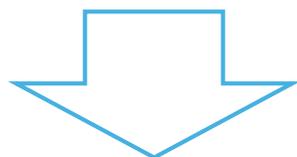
### 持続的な藻場保全活動の課題

- 認証されたクレジットの販売先の開拓
- クレジット認証に係る作業負担



### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 商社によるプロジェクトのトータルサポート
- 地方銀行によるクレジット販売先の紹介



### 連携によって生まれた効果

#### ○地域のメリット

- ✓ クレジット認証に係るコスト削減
- ✓ クレジット収入による藻場創出・保全活動の持続性確保

#### ○民間企業のメリット

- ✓ CSR活動のPR等で企業価値向上に寄与
- ✓ 銀行の本業へ間接的に寄与

# 1 岩手県洋野町

## 「増殖溝での持続的な藻場の創出・保全活動」

資金



### 活動主体・連携主体

活動主体	洋野町ブルーカーボン増殖協議会
連携主体	洋野町、種市漁業協同組合、洋野町漁業協同組合、小子内浜漁業協同組合、住友商事(株)、住友商事東北(株)

### 活動概要

#### ○企業連携によるクレジット認証

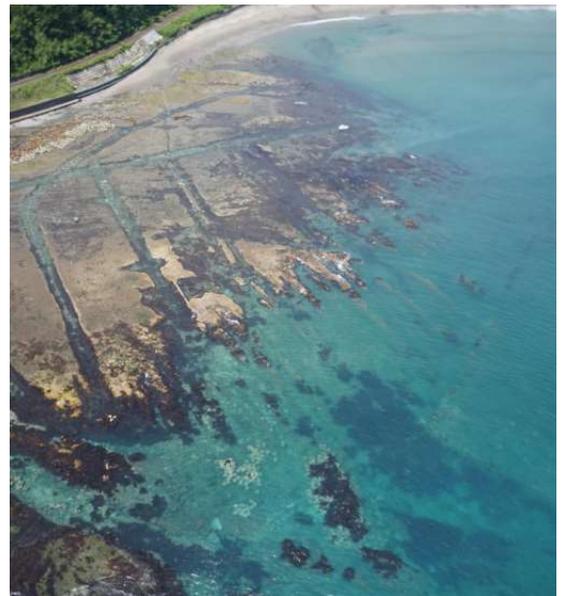
- ・令和4年に洋野町と町内の3漁協が、住友商事及び住友商事東北の協力により「洋野町ブルーカーボン増殖協議会」を立ち上げ連携体制を構築し、藻場の計測やデータ解析を行い、Jブルークレジット®認証を申請、同年11月、3,106.5t-CO<sub>2</sub>が認証された。

#### ○企業連携によるクレジット販売

- ・クレジット保有者は洋野町とし、クレジット販売については、住友商事をはじめプロジェクトの主旨に賛同した地銀（岩手銀行、東北銀行、東邦銀行）が販売仲介業務を行っている。
- ・全国のクレジット購入企業や関係団体による現地視察等を通じてプロジェクト協力者を増やし、国内への制度周知に寄与している。
- ・クレジット収入は、町が「ブルーカーボン基金」に積み立て、更なる藻場の創出・保全活動や海洋教育のための経費に充て、先代から受け継いできた藻場や漁場を未来へつなぐとともに、2050年カーボンニュートラルへの貢献も目指している。



磯掃除（ツブ貝の駆除）



増殖溝 遠景

### 連携の効果

- ・民間企業との連携により、クレジット認証に係るコストや作業を分散できた。
- ・クレジット収入の活用により取組が継続される、循環型プロジェクトとなっている。

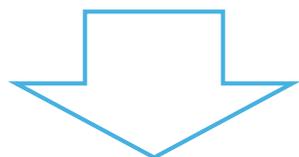
#### 持続的な藻場保全活動の課題

- 近年の環境変化により、海藻資源が衰退傾向  
藻場保全のための人材、資金が不足



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 民間企業との連携による専門家、ダイバーの確保
- クレジット販売による資金確保



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

- ✓ 藻場保全活動の資金確保
- ✓ 地域消費の拡大
- ✓ 環境意識の醸成

##### ○民間企業のメリット

- ✓ CSR活動のPR等で企業価値向上に寄与

## 2 神奈川県葉山町

# 「藻場保全活動とグリーン水素輸送のカーボンオフセット」



### 活動主体・連携主体

活動主体	漁業者、葉山町漁業協同組合、地域ダイビングショップ、葉山一色小学校、鹿島建設(株)
連携主体	自然電力(株)、(株)巴商会、(社)BlueArch

### 活動概要

#### ○地域の藻場の現状

近年の海水温上昇、食害魚の影響等により、カジメ、アラメ等の海藻資源が衰退傾向にあり、漁獲量の減少にも影響している。

#### ○地域ぐるみでのアマモ場の保全

- ・地域のアマモ場は、夏場の高水温、食害等により衰退している。15年間にわたり、葉山一色小学校が地元アマモ種子を用いた種苗を作り、衰退した海域に植付けを行っている。
- ・アマモは春先に植付けしていたが、近年は高水温を避けた秋～冬に植付けしている。

#### ○ダイバーによるカジメ群落の保全

- ・水深15～20mの深場に生育する希少なカジメ群落の保全を行っている。2018年にアイゴによる食害により全滅したエリアに、スポアバック法（成熟したカジメの葉を入れた網袋を設置）により、藻場の復活を図ってきた。
- ・アラメが衰退した浅場エリアで、ムラサキウニの駆除活動を定期的に行っている。

#### ○クレジット取得

- ・2023年度から、葉山町漁業協同組合、葉山町立一色小学校、ダイビングショップナナ、葉山アマモ協議会に所属する企業が連携し「葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動」として、Jブルークレジット®取得に取り組んでおり、2024年度は68.0t-CO<sub>2</sub>が認証されている。認証されたクレジットは(株)巴商会等が購入している。
- ・協議会に所属する鹿島建設(株)の藻場再生技術（大型藻類の種苗生産）が活用されている。



### 連携の効果

- ・クレジットの購入により持続的な藻場保全活動につながっている。
- ・活動主体のダイビングショップのウニ駆除ツアーやクレジット購入企業の顧客を招待するツアーによる地域消費の拡大、環境意識の醸成が図られている。

## 2 神奈川県葉山町

### 「藻場保全活動とグリーン水素輸送のカーボンオフセット」

#### 連携企業 (株)巴商会の取組

##### ○連携の背景

- ・(株)巴商会は、水産業でも活動しており、三浦半島城ヶ島の神奈川県水産技術センターと連携しながら活動する中で、貢献できるフィールドを探していた。
- ・三浦半島は都市近郊で訪問しやすいエリアにあり、現場とともに汗をかける距離感であることから当地域を連携先とした。

##### ○連携の内容

- ・Jブルークレジット®購入を通じて支援している。
- ・(株)巴商会は、グリーン水素（製造時も使用時も二酸化炭素フリーの水素）を販売しており、山梨県企業局が再生可能エネルギーを利用して製造しているグリーン水素を東京ビッグサイトまで運搬する際にクレジットを活用した。グリーン水素は製造時CO<sub>2</sub>フリーであるが、運搬に係るCO<sub>2</sub>を含めてカーボンゼロを目指し、山梨県企業局と共に利用拡大を促進している。
- ・クレジット購入のみならず、社員参加の現地視察、ワカメ、サザエの放流活動のほか、藻場保全活動にも関与し、CSR活動のPR等情報発信にも努めている。



葉山アマモ評議会 ブルークレジット創出海域の視察、ワカメ、サザエの放流活動

#### 活動成果と今後の展望

##### ○活動成果

- ・Jブルークレジット®黎明期に活動を始めたため、TV取材があり、CSR活動のPRにつながっている。
- ・CSR活動の写真を広報に使用することにより企業価値の向上につながっている。

##### ○今後の展望

- ・同様のカーボンオフセットの取組を全国へと展開していきたい。
- ・ダイバーの潜水頻度を減らし、クレジット認証にかかるコスト低減が可能となるよう、水中ドローンを活用する手法を検討している。
- ・クレジット購入を通じた地域への資金提供等により、神奈川県内、全国の藻場回復に貢献していきたい。

### 3 静岡県熱海市

#### 「地元のスTEEKホルダーと連携したカジメ再生活動」

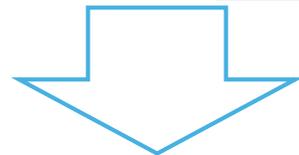
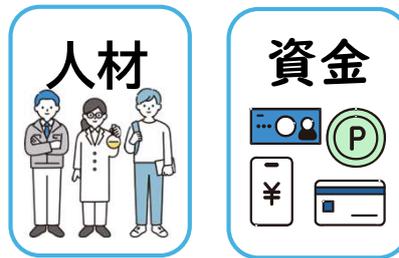
#### 持続的な藻場保全活動の課題

- 企業間の連携体制強化



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 漁協、ダイビングショップ等多様なスTEEKホルダーを巻き込んだ藻場保全活動
- 全国のブルーカーボン事例を発信するNPO法と連携し、勉強会や視察を通じて知見を共有



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

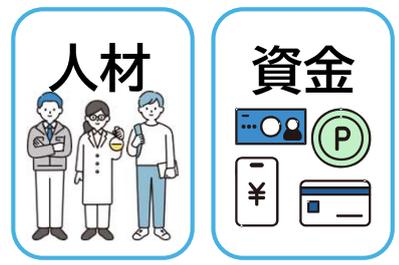
- ✓ 藻場の保全・再生、海の生態系再生を推進
- ✓ 水産資源の回復により、地域漁業の活性化
- ✓ 観光ツアー等を通じた、地域内外からの支援と資金の確保

##### ○民間企業のメリット

- ✓ 全国的な情報共有と意識醸成

### 3 静岡県熱海市

## 「地元のステークホルダーと連携したカジメ再生活動」



### 活動主体・連携主体

活動主体	ブルーカーボンプロジェクト推進協議会
連携主体	大熱海漁業協同組合、熱海市、(株)未来創造部、その他13団体

### 活動概要

#### ○藻場保全の取組

- ・ブルーカーボンプロジェクト推進協議会を設立し、地元のステークホルダーやメディアと連携しながら、熱海市においてカジメの保全・再生活動を推進している。
- ・ブルーカーボン熱海モデルとして、藻場の再生をきっかけに、漁業や観光等の地元経済の活性化、環境意識の醸成等、地域循環共生圏の実現を目指している。

#### ○簡易で廉価な藻場分布調査法の開発

- ・ROV（水中ドローン）、GPS魚群探知機、水中カメラ等、廉価で誰でも使える機材を中心にした調査手法の開発を目指す。

#### ○活動情報の共有・連携

- ・NPO法人ブルーカーボン・ネットワーク（事務局：(株)未来創造部）と連携し、国内外のブルーカーボンの取組を共有、活動の促進を図る。

#### ブルーカーボン熱海モデル 気候変動×漁業×観光×環境教育



提供：未来創造部

### 連携の効果

- ・活動を通じて、地域のさまざまなステークホルダーとの連携が生まれ、豊かな海を取り戻す意識ならびに気候変動対策への理解や機運の醸成につながっている。

### 3 静岡県熱海市

## 「地元のステークホルダーと連携したカジメ再生活動」

### 連携企業 (株)未来創造部の取組

#### ○活動の背景

- ・もともと海を生業としていることから、早くから海の変化の環境の変化に気づいていた。
- ・気候変動対策として二酸化炭素吸収量の増加と海の生態系の豊かさを守るブルーカーボンに着目、漁協や地元の関係者とのつながりを生かし、一緒に活動を進めることを目指した。

#### ○活動内容

- ・カジメの保全・再生及び藻場の調査手法の開発、海洋環境のモニタリングを実施している。
- ・ブルーカーボンプロジェクト推進協議会の運営、地元のステークホルダー、関係者との連携を図る。
- ・NPO法人ブルーカーボン・ネットワークの事務局を務め、国内外の取組を発信・共有、企業同士の連携やネットワークの形成、熱海の海を生かした活動の促進等を図る。

#### 藻場再生

フィールド実験・事例調査による手法開発

#### 藻場調査

手法開発

情報発信・共有

ネットワーク化



カジメ再生のようす  
出典：未来創造部

### 活動成果と今後の展望

#### ○活動成果

- ・目的を共有し、地元のさまざまなステークホルダーの理解を得ることで、地域内外での連携体制が構築されている。

#### ○今後の展望

- ・Jブルークレジット®認証とクレジット収入により活動資金を確保していきたい。
- ・ROVによる海中モニタリングシステムの開発、簡易で廉価な藻場分布調査手法の確立、広範囲に藻場を計測できる技術の開発を目指す。

## 4 三重県鳥羽市

### 「食害対策とクレジット販売を通じた地元企業等との連携」

#### 持続的な藻場保全活動の課題

- 高水温の影響によるアイゴ等の植食性魚類の食害拡大に対する活動資金の不足



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- クレジット認証の推進・地域内外の民間企業等へのクレジット販売
- クレジット販売を契機とした地元民間企業等への海洋環境・食文化・海洋教育等に対する意識向上



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

- ✓ CO<sub>2</sub>吸収源としての藻類生産の資金確保、理解向上、企業との交流

##### ○民間企業のメリット

- ✓ 漁場見学、試食会等のクレジット購入に対するリターン
- ✓ CSR活動のPR等で企業価値向上に寄与

## 4 三重県鳥羽市

### 「食害対策とクレジット販売を通じた地元企業等との連携」

資金



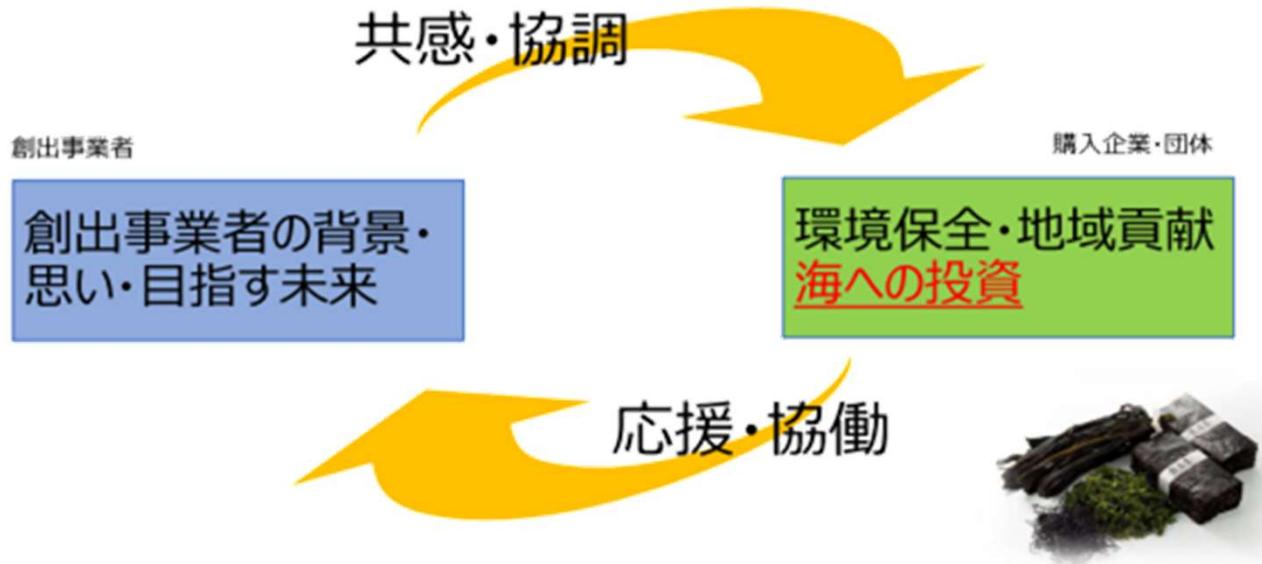
#### 活動主体・連携主体

活動主体	鳥羽磯部漁業協同組合、鳥羽地区黒のり養殖研究協議会、鳥羽市、鳥羽商船高等専門学校、鳥羽市観光協会
連携主体	地元企業

#### 活動概要

##### 〇クレジット認証と企業連携

- ・2023年度に「鳥羽港周辺海域の漁業と観光業連携による海女文化・地域振興に資するBCプロジェクト」としてJブルークレジット®申請し、71.6t-CO<sub>2</sub>が認証されている。
- ・高水温の影響により、アイゴ等の植食魚による食害が拡大している中で、食害対策や環境保全等の活動を継続・拡大するため実施したもので、クロノリ養殖では初の認証となっている。
- ・漁業協同組合と観光協会などが参加し、地元の企業中心にクレジットを販売している。
- ・購入企業は、漁場見学、ワカメ試食等のリターンも受け取れ、クレジット収入で交流会を実施し、活動の周知、海洋環境や食文化に対する意識向上に努めている。
- ・その他、研修、社員教育等の受入れ、CSR活動及び実証試験のフィールドの提供等、企業との連携を進めている。



ブルーカーボンクレジット創出事業者と購入企業の関係

#### 連携の効果

- ・環境に関して何かしたいという企業の協力が得られ、活動資金を確保できた。
- ・地元企業等へのCO<sub>2</sub>吸収源としての藻類生産に対する意識向上が図られた。

#### 持続的な藻場保全活動の課題

- 藻場保全活動に係る担い手、資金の不足



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 企業会員による協力金及びクレジット購入で、定期的な協働イベントを実施
- 市民参加型の環境学習や清掃活動を通じた、地域と企業の連携強化



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

- ✓ 小中学校での環境学習、市民参加型イベント、漁業者の里海保全等により、地域の環境保全意識の向上
- ✓ 企業からの協力金等、継続的な活動資金の確保

##### ○民間企業のメリット

- ✓ 所属している地域環境への貢献

## 5 兵庫県神戸市

# 「多様な主体が参画した藻場保全とクレジットの活用」



### 活動主体・連携主体

活動主体	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト
連携主体	兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワーク、兵庫運河・真珠貝プロジェクト

### 活動概要

#### ○藻場保全と環境学習

- ・明治時代に設立された兵庫運河について、汚染が目立つなかで市当局の呼びかけにより木材会社を中心となって、1971年に「兵庫運河を美しくする会」が設立され、2024年現在、企業会員49社と個人会員6人となっている。
- ・2013年度に「兵庫漁業協同組合」、「兵庫運河を美しくする会」等が構成団体となり漁業者を中心とした「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」が設立され、豊かな里海を未来に残していくために、アサリの放流やアマモ等の藻場の整備、環境学習等に取り組んでいる。こうした藻場保全活動は、2022年4月に西日本初の「ブルークレジット®」認証を受けている。
- ・漁業者は養殖業を営んでいたが、海の環境悪化に気付き漁業者自らが環境学習、里海保全を開始した。漁業者中心の取組により、地域環境に関心ある住民・企業他関係者が増え、藻場保全に係る地域のコミュニティが広がっている。



兵庫運河 きらきらビーチ付近のアマモ場の様子

### 連携の効果

- ・地元企業がクレジット購入することで、活動資金を得ている。
- ・企業の活動地域の環境保全に寄与している。
- ・漁業者が中心となった環境学習等の取組により、地域での藻場保全活動への関心が高まっている。
- ・地域の協力企業や小中学校等が参入して藻場保全活動に努めることで持続可能な藻場保全活動の構築につながっている。

#### 持続的な藻場保全活動の課題

- 海洋環境に関する科学的な理解不足
- 地元住民との連携不足
- 資金の安定的確保が困難
- 環境保全の取組に関わる機会が少ない



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 専門家をアドバイザーに迎え、藻場造成計画策定のサポート
- クレジット認証の支援
- 住民参加のイベントやワークショップの実施
- 社員食堂へ食害魚の販売等



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

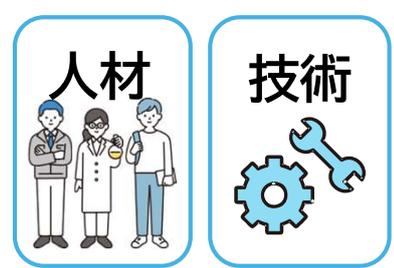
- ✓ 地元の市民活動団体や企業との連携
- ✓ 地域の海洋保全への意識喚起
- ✓ 食害魚の販売による新たな収入源確保

##### ○民間企業のメリット

- ✓ 海洋環境への貢献
- ✓ 企業価値の向上
- ✓ 新たな企業間連携

## 6 山口県防府市

# 「EVタンカーを実現した企業との連携と藻場保全活動」



## 活動主体・連携主体

活動主体	うみのまちづくり株式会社
連携主体	山口県漁業協同組合吉佐統括支店、(一社)鋳田籠工法協会

## 活動概要

### ○連携の背景

- ・世界初のEVタンカーを実現した旭タンカー(株)では、脱炭素社会の実現を目指し、ゼロエミッションと海洋環境保全に貢献するため、「うみのまちづくり株式会社」を設立した。山口県漁業協同組合吉佐統括支店よりJブルークレジット®認証の取組について打診があり、2023年協議会を設立し、連携に至った。

### ○連携の内容

- ・防府市の地場産業である鋳鉄を使った藻場造成計画策定やJブルークレジット®申請を代行し、1.0t-CO<sub>2</sub>が認証されている。
- ・協議会からスタートした活動を瀬戸内海エリアに拡張し、「アイゴネットワーク」を設立し里海づくりの普及を行う好循環モデルの実現に尽力した。様々な地域や企業に対して藻場造成や食害魚の駆除について呼びかけている。
- ・水産資源の活用として、旭タンカー(株)のネットワークを生かして、社員食堂へ食害魚の販売等を行うなど、補助金に頼らない取組を実施している。



鋳鉄を使った魚礁



魚礁に生えた海藻



社員食堂の状況

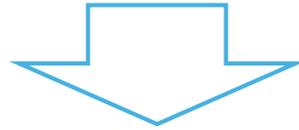
出典：海と日本プロジェクト in やまぐち

## 連携の効果

- ・協議会の活動が地元新聞等で取り上げられたり、食害魚を都心の企業の社員食堂で提供したりすることで、他社からの問い合わせがあり、グループ企業内やこれまで関係の薄かった企業とも新たな連携が生まれ、親会社の企業価値の向上に貢献している。

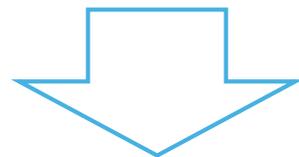
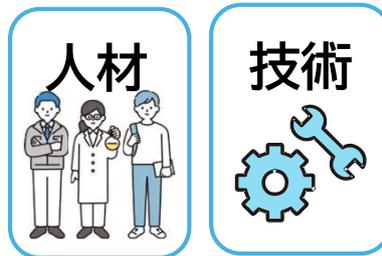
### 持続的な藻場保全活動の課題

- ・ ガンガゼ等による磯焼けが発生
- ・ 持続可能な藻場保全の人材、技術が不足



### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- ・ 地域のダイビングショップと連携したウニ駆除
- ・ 駆除したウニを使った蓄養と商品開発
- ・ 真珠母貝養殖筏に繋茂する海藻のクレジット化



### 連携によって生まれた効果

#### ○地域のメリット

- ✓ 藻場再生活動の人材確保
- ✓ ウニ駆除と商品開発の両立
- ✓ クレジット認証に必要な調査や手続きの円滑化
- ✓ 真珠養殖場の環境改善

#### ○民間企業のメリット

- ✓ ダイビング環境が改善されることで間接的に本業に寄与

## 7 愛媛県愛南町

### 「藻場保全活動と商品開発（ウニッコリー、Jブルークレジット）」



#### 活動主体・連携主体

活動主体	愛南の藻場を守る会、愛南町ブルーカーボン推進協議会
連携主体	地域のダイビングショップ、一般社団法人Umidas

#### 活動概要

##### ○ウニ駆除

- ・増えすぎたガンガゼの食害が磯焼けの一因として問題となっていた。そこで、ガンガゼが多く海藻類がほとんど見られない沿岸域を試験区域として、ガンガゼの駆除活動を行い、約1年後に経過を調査した結果、海藻類の繁茂を確認できた。
- ・現在も地域のダイビングショップ、愛媛大学南予水産研究センターとの連携し、愛南の藻場を守る会としてウニ駆除を実施している。また、駆除活動を行うにあたっては、漁場生産力・水産多面的機能強化事業の施策を活用している。

##### ○ウニッコリーの開発

- ・ウニを駆除するだけでなく、食用として活用するため蓄養を検討し、いろいろな餌を模索した結果、愛南町の特産品であるブロッコリーと愛南ゴールド（河内晩柑）に辿り着いた。
- ・ガンガゼウニを採取して、生息数を適切に調整することにより、漁場環境の保全につながっている。

##### ○クレジット取得

- ・愛南町ブルーカーボン推進協議会が取り組む「未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト～」は、2023年12月にJブルークレジット®を取得している。貝類養殖筏を活用し、認証に向けた藻場計測やデータ解析、認証後の販売等は一般社団法人Umidasとも連携しながら実施している。

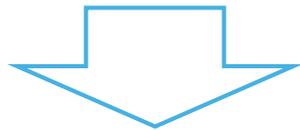


#### 連携の効果

- ・邪魔者であった海の資源に新たな価値を見出し、商品化につながった。企業としても、ダイビング環境の改善を通して海域環境保全に貢献している。
- ・民間企業との連携により、クレジット認証に係る調査や申請を円滑に行うことができた。取得したクレジットは、真珠養殖業の活性化、環境保全活動、環境教育等に活用する予定。

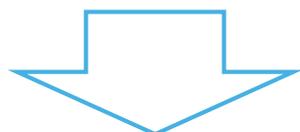
#### 持続的な藻場保全活動の課題

- ウニ駆除後の藻場回復が安定するまでのモニタリング人材の不足
- 体制強化と活動資金の確保



#### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 企業や行政、個人寄付で連携プロジェクトを実施
- 寄付金制度を通じて人材を継続的に確保



#### 連携によって生まれた効果

##### ○地域のメリット

- ✓ ガンガゼ駆除と母藻投入で藻場再生に成功
- ✓ ふるさと寄付金を活用した活動資金の確保や地域住民への環境意識の醸成

##### ○民間企業のメリット

- ✓ 連携意向のある企業の関心が向上

## 8 佐賀県唐津市

### 「ふるさと寄付金等を活用した藻場保全」



#### 活動主体・連携主体

活動主体	NPO法人 浜-街交流ネット唐津
連携主体	漁業者、佐賀県、唐津市、西九州大学健康栄養学科

#### 活動概要

##### ○地域の藻場の現状

唐津市が位置する玄界地域では、海水温の上昇により、南方系のウニ類特にガンガゼの増加による磯焼けが発生しており、ウニやアワビ等の磯根資源に大きな影響を及ぼしている。

##### ○藻場保全の取組

- ・2022年より、佐賀県ふるさと寄付金等を活用し、ガンガゼ駆除、母藻投入やモニタリングを行っている。
- ・2025年に7,700m<sup>2</sup>のワカメ、ホンダワラ、ヒジキ等の藻場再生に成功している。今後、Jブルークレジット®認証を目指している。



ウニ駆除の様子



出典：NPO法人 浜-街交流ネット唐津HP

#### 連携の効果

- ・ワカメ、ホンダワラ、ヒジキ等の藻場再生に成功した。
- ・地方自治体とNPOと漁業者が連携することで新たな商品開発につながるとともに、ふるさと寄付金等を活用した活動資金の確保や地域住民への環境意識の醸成が図られている。

## 8 佐賀県唐津市

### 「ふるさと寄付金等を活用した藻場保全」

#### 連携企業 NPO法人 浜一街交流ネット唐津

##### ○活動の背景

- ・ 漁業者の高齢化と新規就業者の不足に対して、地域の漁業の活性化（漁業者の所得向上、担い手創出）を目指して活動している。

##### ○活動内容

- ・ 藻場保全及び環境再生活動として、ガンガゼの駆除、母藻筏の設置や藻場のモニタリングを実施している。
- ・ 佐賀県等と連携し、ふるさと寄付金等を活用した活動資金の確保や、ガンガゼウニパスタソースの開発販売等、未利用資源の有効活用にも取り組む。
- ・ 漁場環境保全のため、海洋プラごみの回収とその固形燃料化、魚食普及のため、大学と連携した料理教室の開催や児童養護施設への海産物寄贈を行っている。



出典：NPO法人 浜一街交流ネット唐津HP

#### 活動成果と今後の展望

##### ○活動成果

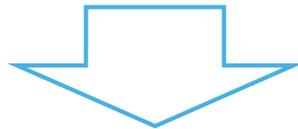
- ・ 広報の成果で、連携意向のある企業の関心が向上している。
- ・ 駆除したガンガゼを活用したウニパスタソースの販売ができた。

##### ○今後の展望

- ・ Jブルークレジット®の認証とクレジット収入による活動資金の確保を目指す。

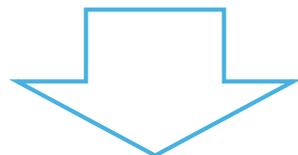
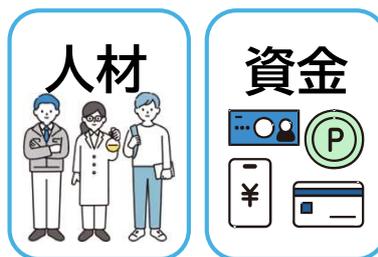
### 持続的な藻場保全活動の課題

- ・ イスズミによる食害があるが、その駆除に必要な人材、資金が不足



### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- ・ 駆除した未利用魚（イスズミ）の商品化と販売ルートの確保



### 連携によって生まれた効果

#### ○地域のメリット

- ✓ 加工場等での地域消費拡大
- ✓ イスズミの駆除と経済循環の両立

#### ○民間企業のメリット

- ✓ 商品の原材料の調達
- ✓ 具体的な地域名を出しての商品PR
- ✓ 新たな地域とのつながり構築

# 9 熊本県天草市

## 「未利用魚活用による地域水産業の発展」



### 活動主体・連携主体

活動主体	天草漁業協同組合牛深総合支所
連携主体	天草市、(株)バンナーズ、(株)海神貿易九州事業部、農林中央金庫熊本支店

### 活動概要

#### ○海藻の種苗投入

・ヒジキプレートを活動海域に設置するとともに、食害保護具の設置も行っている。

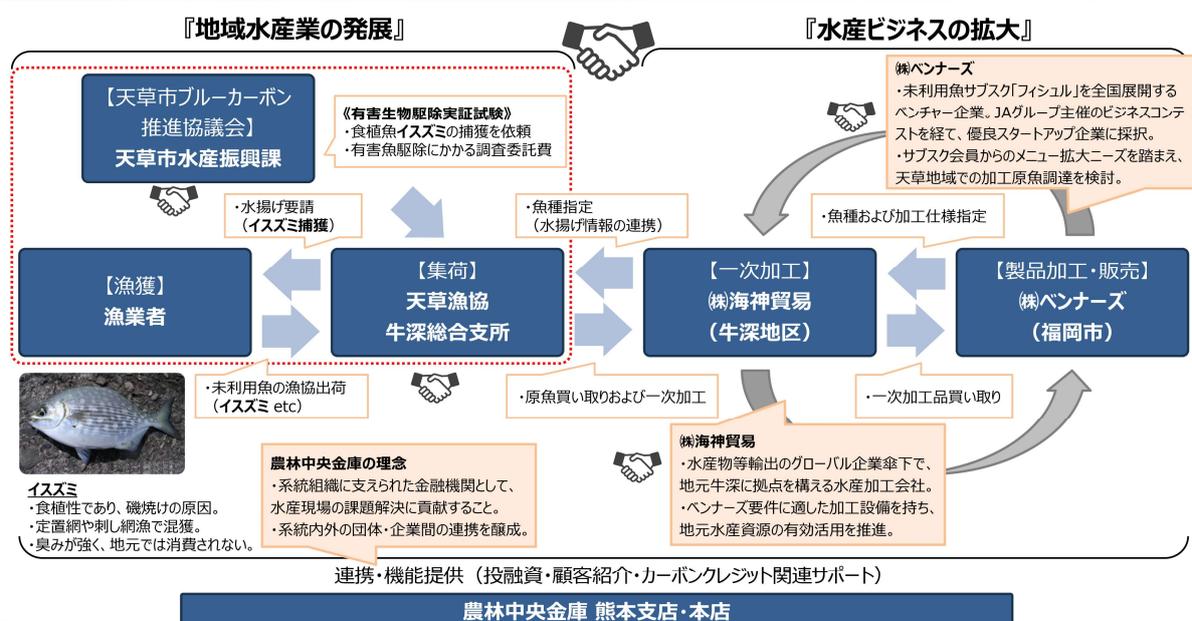
#### ○アマモの移植及び播種

・平成30年度まではアマモの苗付き網を設置していたが、令和元年度からは花枝を取り付けたロープを設置する「ロープ式下種更新法」によりアマモ場の再生を図るとともに、食害防止用の仕切り網の設置も行っている。

#### ○食害魚の駆除及び販売

・市から磯焼け対策の一環でイスズミ駆除に補助金が支出されているが、高鮮度な活魚については、漁協での選別・保管し、地域の加工会社(株)海神貿易に販売し、その後に福岡県の加工会社(株)バンナーズに販売している。  
 ・地域の金融機関の仲介で連携した(株)バンナーズが、生食可能な加工食品の加工原料として利用することで、未利用魚や低利用魚の販売先が確保できるようになり、藻場保全活動が漁業者の収益にもつながっている。

#### 未利用魚活用による地域水産業の発展 (天草市ブルーカーボン推進事業×水産事業者)



### 連携の効果

- ・加工場での需要拡大やイスズミ駆除が経済活動となるなど、水産業のバリューチェーン構築につながっている。
- ・未利用魚や低利用魚の販売先が見つかり、地域水産業の発展に寄与している。

## 9 熊本県天草市

### 「未利用魚活用による地域水産業の発展」

#### 連携企業 (株)ベンナーズの取組

##### ○連携の背景

- ・ビジネスとして未利用魚を確保できる地域を探していたところ、漁協、(株)ベンナーズ双方と取引関係にあった農林中央金庫の仲介により、地元の一次加工会社も含めた連携体制が構築された。

##### ○連携の内容・狙い

- ・(株)海神貿易が一次加工した未利用魚(イスズミ)を買い取り、加工・販売している。
- ・加工(味付)したイスズミは、(株)ベンナーズの提供しているサービスの「フィシュル」を通じて首都圏を中心とした顧客層に販売している。多様な味付けで商品化しており、全国のサブスクリプション会員に販売している。

#### イスズミの商品化



漁業者が捕獲したイスズミ  
【天草漁協牛深総合支所】



フィレ加工後にアルコール凍結  
【株式会社 海神貿易】

多彩な味付けで商品化  
全国のサブスク会員に販売  
【株式会社 ベンナーズ】

##### <商品化のポイント>

- 原魚(イスズミ)の安定：1ロット5ケース(フィレ50kg)
- 生食可能な鮮度維持
  - ・活後後にアルコール凍結機で急速冷凍：設備の確保
  - ・コールドチェーン(低温物流)の確立：物流企業連携
- 商品開発力：植食性魚類特有の臭みを消す加工技術

NORINCHUKIN

#### 活動成果と今後の展望

##### ○活動成果

- ・具体的な地域で未利用魚を製品化していることが、他地域へのPRにつながっている。
- ・新たな地域とのつながりが構築できている。

##### ○今後の展望

- ・一次加工施設が必要であるため、漁場の近くに加工場がありOEM等が可能で、漁業者が藻場を保全したいという意思を持っている地域との連携を検討したい。

### 持続的な藻場保全活動の課題

- アマモ場の減少が続いているが、その保全にあたっての人材等が不足
- CSR活動では取組が長続きしない



### 課題に対してどのような民間連携をしているか

- 芝えびの販売収益の一部を用いアマモ場再生活動に活用
- 3社共同の取組へ各社員が現場参加
- 地元行政、教育委員会、水産研究センター等、多様な主体が参加した活動体制を構築



### 連携によって生まれた効果

#### ○地域のメリット

- ✓ 小学校で先進的な環境教育の課外活動の実施
- ✓ 地域の海洋環境保全の意識向上
- ✓ アマモ場保全活動への認知度向上

#### ○民間企業のメリット

- ✓ 海洋環境保全活動への参画、持続的な水産資源の調達
- ✓ サステナビリティの取組を企業内外にPR

## 10 熊本県上天草市

### 「企業の環境保護活動とアマモ場再生」



#### 活動主体・連携主体

活動主体	天草漁業協同組合、(株)福岡魚市場、(株)ニチレイフレッシュ
連携主体	(株)ニチレイフレッシュ

#### 活動概要

##### ○地域の藻場の現状

- ・近年、海水温の上昇等により、アマモ場が減少しており、水産資源の減少や海洋生態系の変化にもつながっている。
- ・アマモは、海のゆりかごと呼ばれる海草で、潮流に身を任せて光合成を行い二酸化炭素を吸収するとともに、海中の栄養塩（窒素やリン）を吸収する。この働きにより、深刻な漁業被害をもたらす赤潮の発生を抑制し、養殖水産物への被害を防ぐ役割を果たしている。また、海水中の生物の隠れ場となり、エビをはじめとする様々な生物の産卵・生育場所として、海の生態系を支えている。

##### ○アマモ場再生活動

- ・2022年より天草漁業協同組合、(株)福岡魚市場、(株)ニチレイフレッシュの3社で共同して、アマモ場再生活動「生命（いのち）の海プロジェクト」に取り組んでいる。本プロジェクトでは、アマモ場の再生活動を通じて、海洋環境の改善と地域経済の循環の両立を目指している。
- ・上天草で水揚げされる天然芝えびは持続可能な漁獲方法が用いられ、漁獲時期を定めて水揚げを行うことで、地域の持続可能な水産業の発展に貢献している。



#### 連携の効果

- ・次世代の担い手である子どもたちに、課外授業として、実際の種子選別作業や種子放流体験を通じて海洋環境保全について実践的に学ぶ、先進的な環境教育プログラムを実施しており、海洋環境保全やアマモ場保全活動の認知度向上等につながっている。
- ・課外授業の後には、地元の海で水揚げされた天然芝えびを使った給食が提供され、地元の子どもたちに環境から食育までを学ぶ機会を提供している。
- ・アマモ場の再生に取り組むことで、今後芝えびの生育環境が改善され、水産物の安定供給につながる好循環を生み出すことも期待されている。



## 【参考資料】

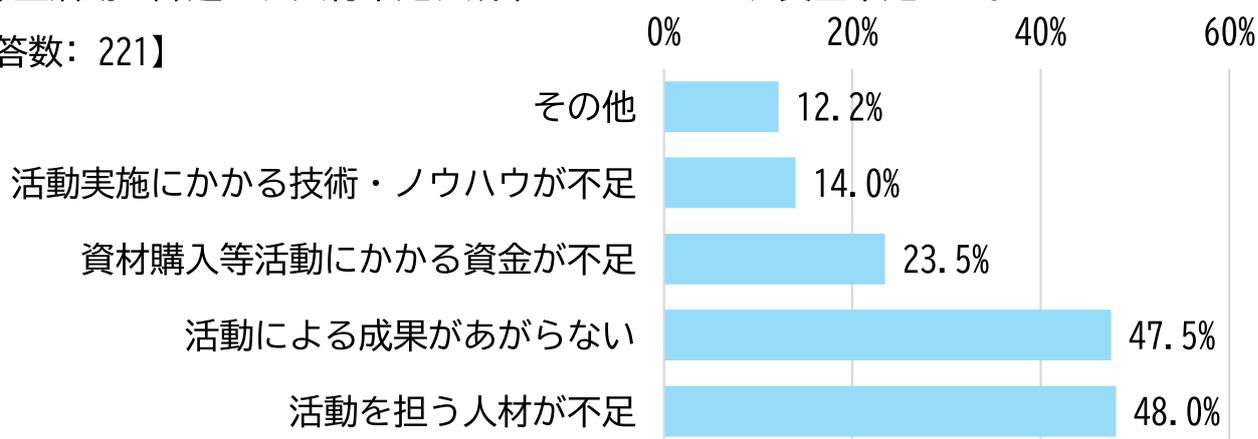
### 「藻場保全活動に対する浜(活動組織)と民間企業の意識調査」

- ・ 持続的な藻場保全体制を構築するにあたり、浜(活動組織)と民間企業との連携の可能性や課題を把握するためアンケート調査。
- ・ 活動組織287団体、民間企業約3,000社を対象に令和6年7～8月に実施。
- ・ 有効回答は、活動組織221団体(77%)、民間企業329社(11%)

#### ○浜(活動組織)の藻場保全活動の継続意向、課題

- ・ **約9割**の活動組織が藻場保全を**継続する意向**。
- ・ 藻場保全活動の課題は、人材不足、成果があがらない、資金不足など。

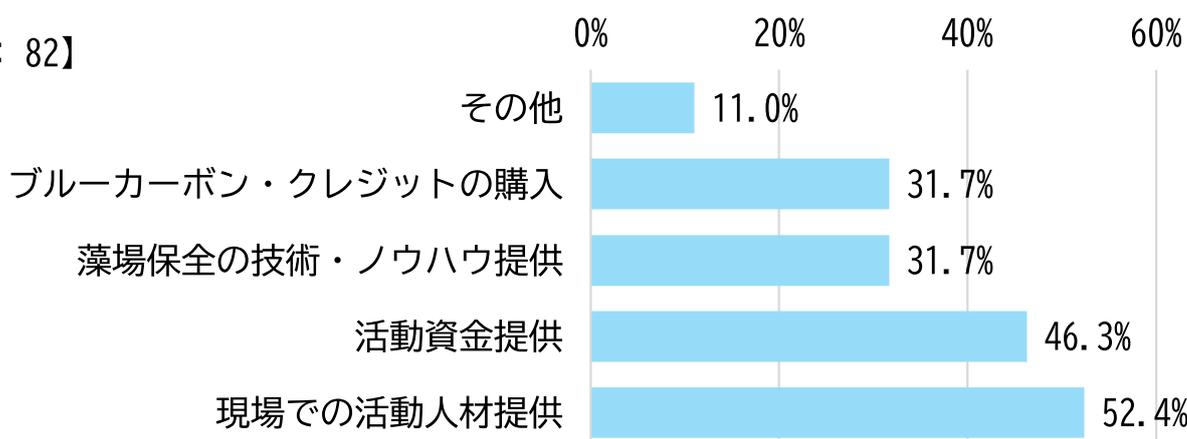
【回答数：221】



#### ○民間企業との連携、民間企業に期待すること

- ・ **約4割**の活動組織が**民間企業との連携を希望**。
- ・ 連携を希望している活動組織が期待しているのは、人材提供、資金提供、技術提供等。

【回答数：82】



- ・ 連携にあたっての課題は、連携意向のある企業がわからない、企業が何を担えるのか分からないとの回答が多い。

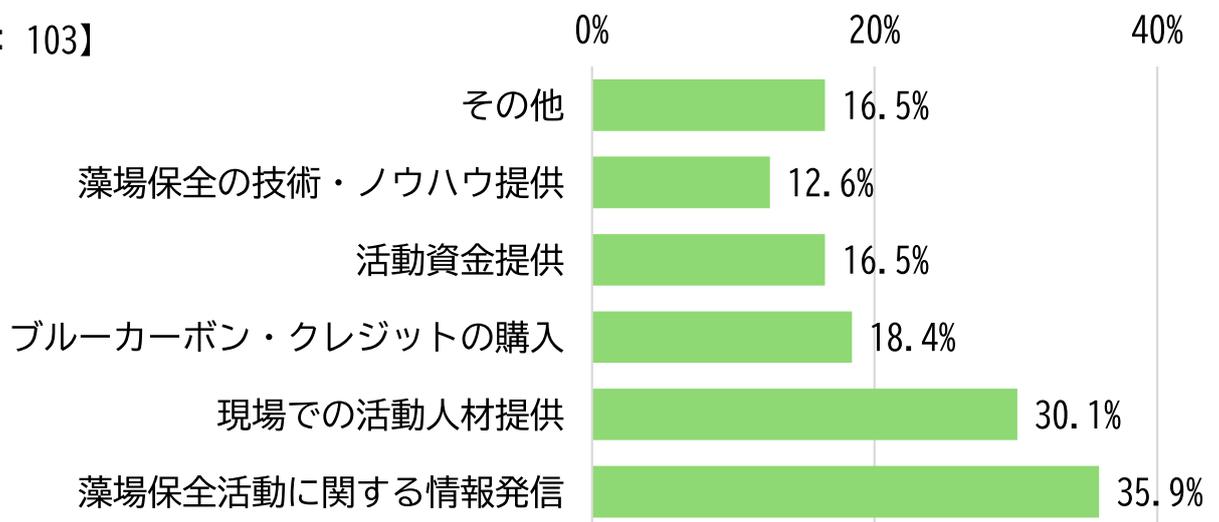
## 【参考資料】

### 「藻場保全活動に対する浜(活動組織)と民間企業の意識調査」

#### ○民間企業の藻場保全活動、希望するかかわり方

- ・約3割の民間企業が藻場保全活動に関わっている。
- ・関わっていない約7割の民間企業のうち、約4割は今後関わりたいと回答。関わり方は、情報発信、人材提供、クレジットの購入など。

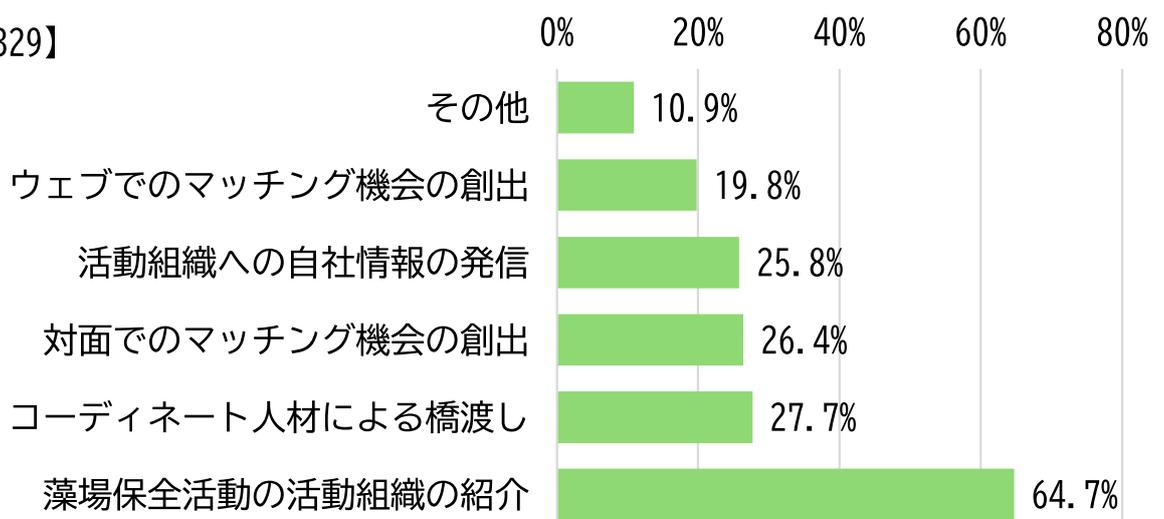
【回答数：103】



#### ○民間企業と活動組織の連携を促進するしくみ

- ・民間企業は、活動組織の紹介、マッチング機会の創出が必要とする回答が多い。

【回答数：329】



## 参考情報

### 【水産庁HP】

藻場の保全・創造、磯焼け対策  
藻場に関する各種手引きやガイドラインを掲載



### 【ひとうみ.jp】

水産業・漁村で取り組まれる  
多面的機能に関する全国の取組情報を掲載  
漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援委託事業（水産庁委託事業）



### 【ジャパンブルーエコノミー技術研究組合】

ブルーカーボンクレジット  
(Jブルークレジット®) に関すること



お問合せ先

水産庁漁港漁場整備部事業課機能高度化班  
ダイヤルイン：03-6744-7137